

## 運輸部

仕事の  
窓

4

# 「観光立国推進リレーシンポジウム in 沖縄」を開催！

### Point

シンポジウムには、県内の自治体及び経済・観光関連の団体・事業者等約220人が参加し、「観光立国推進リレーシンポジウム」の役割をテーマとする基調講演やパネルディスカッションが行われました。パネリストや会場参加者から多くの意見や要望が寄せられ、沖縄観光に対する関心の高さと観光庁に対する期待の大きさをうかがわせるものとなりました。

沖縄総合事務局運輸部は、「観光庁」の発足を記念し、平成20年11月11日に「観光立国推進リレーシンポジウム in 沖縄」を開催しました。当は雨天にもかかわらず、県内の自治体及び経済・観光関連の団体・事業者等から約220人が参加しました。

基調講演では、財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（OCVB）会長の平良哲氏が「沖縄観光のさらなる発展に向けて、那覇空港第二滑走路の建設及び国際線旅客ターミナルの整備促進等の産業基盤をより一層充実させる必要性を指摘するとともに、新たな取組として、「新4K」（環境健康・研究・金融）経済の推進や、県が検討を進めているカジノ導入への期待が示されました。

また、観光庁国際交流推進課外客誘致室長の勝又正秀氏から、「観光庁の役割と外国人観光客拡大の取組について」と題して、インバウンド・外国人観光客の訪日旅行（促進に向けた国の取組と今後の課題を指摘し、薄利

多売せず、質の高い観光地としての日本を海外に売り込んでいく」重要性が説明されました。

続いて、OCVBの平良氏のコーディネートの下、観光庁の勝又氏のほか、沖縄観光の各分野を代表するパネリスト（ら7名によるパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションでは、沖縄観光の現状と課題、将来の展望について、各パネリストが専門的な立場からの意見を述べるとともに、特に「今後の沖縄観光の在り方」に関して、国内・海外からの誘客増大に備えた那覇空港の整備促進、観光Tズの様化と環境保全に対応した観光地づくりの推進、官民の連携強化による観光産業で活躍できる人材育成の強化などについて様々な意見が交わされました。

また、本年10月1日に発足した観光庁に対して、パネリストや会場参加者から多くの意見や要望が出されました。これに対し、観光庁の勝又氏は、

那覇空港の整備等について、空港は（島嶼県である）沖縄にとって必要なハードである」という理解を示したほか、さらなる訪日外国人旅行者の増加や質の高い観光地づくりの推進という観点から、中国人観光客の査証取得手続きの簡素化や、関係省庁や地域との連携強化への意欲が示されました。

### パネリスト

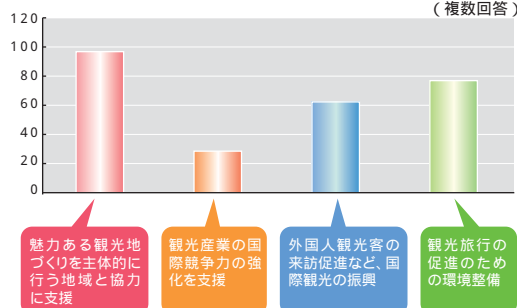
- 勝又 正秀 氏（観光庁国際交流推進課外客誘致室長）
- 松本 真一 氏（沖縄県観光商工部参事監兼観光交流統括監）
- 比嘉 良雄 氏（沖縄都市モノレール株式会社代表取締役社長）
- 淵辺 美紀 氏（沖縄経済同友会副代表幹事）
- 新垣 安男 氏（（社）日本旅行業協会沖縄支部長）
- 比嘉 司 氏（（社）那覇市観光協会事務局長）
- 平良 哲 氏（（財）沖縄観光コンベンションビューロー会長）

はコーディネーター

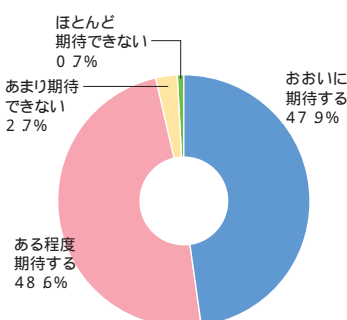
### 参加者アンケート結果

#### 観光庁が掲げる重点項目への関心度（期待度）

（複数回答）



#### 観光庁への期待度



観光関係専門家によるパネルディスカッション